

平成28年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
(地域再エネ水素ステーション導入事業)
採択事業一覧表

番号	事業実施の代表者 (共同実施者)	事業概要
1	三井住友ファイナ ンス&リース株式 会社 (鳥取ガス、鳥取 県)	<ul style="list-style-type: none"> ・H28年2月策定「鳥取県水素エネルギー推進ビジョン」では、2030年に県内のFCV4,400台(うちFCバス10台)、水素ST10基(うち再エネ5基)等と位置づけ。 ・既存水素ST(兵庫県尼崎市)との最短走行距離が約180kmで、FCVの使用領域が県内全域に拡大し、4大都市圏(関西)とも繋がる。 ・スマート水素ステーション(水素製造量1.5kg/日、常用圧力35MPa)及び太陽光発電設備を導入。
2	三井住友ファイナ ンス&リース株式 会社 (郡山市)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度策定「郡山市水素利活用推進構想」では、燃料電池自動車の普及促進とともに、水素ステーション導入を積極的に進めることなどにより、水素利活用拡大に向けた取組みを着実に進め、大幅な省エネルギーや環境負荷低減を図り、水素社会への道筋を示している。 ・既存水素ST(宮城県仙台市)との最短走行距離が約130kmで、今回設置する水素STにより福島県内全域を網羅でき、首都圏と東北の中間地点であるため、FCVの使用領域が首都圏から東北圏へと拡大する。 ・スマート水素ステーション(水素製造量1.5kg/日、常用圧力35MPa)及び太陽光発電設備を導入。
3	神奈川県	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年3月策定「神奈川の水素社会実現ロードマップ」では、2020年度までに県内のFCV5,000台、水素ST25箇所等と位置づけ。 ・既存水素ST(神奈川県横浜市)との最短走行距離は約13km。 ・スマート水素ステーション(水素製造量1.5kg/日、常用圧力35MPa)及び太陽光発電設備を導入。(既設太陽光及びバイオマス発電設備も併用)
4	京都市	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年2月策定「京都府燃料電池自動車(FCV)普及・水素インフラビジョン」では、2020年に府内のFCVを1,500台、水素ステーションを7基、2025年にそれぞれ20,000台、16基等と位置づけ。 ・既存水素ST(京都府京都市)との最短走行距離が約8kmで、3台のFCVによるカーシェアリング、エコバスツアーにより、水素に対する理解向上やFCVの購買意識の醸成を図る。 ・スマート水素ステーション(水素製造量1.5kg/日、常用圧力35MPa)を導入。既設太陽光発電設備を活用。

番号	事業実施の代表者 (共同実施者)	事業概要
5	長崎県	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年7月策定「五島市再生可能エネルギー前期基本計画」では、平成34年度にFCV50台、FC船50隻、水素関連事業者5業者等と位置づけ。 ・既存水素ステーション(佐賀県佐賀市)との最短走行距離が約210kmで、長崎県では初の設置であり、福江島全域(326.43km²)が新たにFCV等の使用可能な地域となる。 ・小型水素ステーション(水素製造量約2.1kg/日、常用圧力35MPa)を導入(既存水素製造設備も一部活用)。既設浮体式洋上風力発電設備を活用。
6	倉敷市	<p>平成27年9月策定「倉敷みらい創生戦略」では、平成31年度までに市内の水素STを2箇所等と位置づけ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存水素ステーション(兵庫県尼崎市)との最短走行距離は約190kmで、中国四国地方の大部分と兵庫県までFCV走行範囲が拡大される。また、尼崎市から周南市までの空白域を埋めることが可能。 ・スマート水素ステーション(水素製造量1.5kg/日、常用圧力35MPa)を導入。既設太陽光発電設備を活用。
7	鈴鹿市	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年2月策定「鈴鹿市水素社会ロードマップ」では、2020年に市内の燃料電池自動車(FCV)を210台、水素ステーションを2基、2030年にそれぞれ4,900台、8基等と位置づけ。 ・既存水素ST(愛知県名古屋市)との最短走行距離が約50kmで、今回設置する水素ステーションとの連携により、FCVの使用領域が関西及び中部地方に拡大。 ・スマート水素ステーション(水素製造量1.5kg/日、常用圧力35MPa)を導入。既設太陽光発電設備を活用。
8	本田技研工業株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・スマート水素ステーションとFCV、及び外部給電器をセットで導入し、水素社会実現に向けた、「つくる」、「つかう」、「つながる」のコンセプトのもと、各自治体、企業に対して働きかけ、早期展開を図る。 ・既存水素ST(愛知県名古屋市)との最短走行距離が約61kmで、紀伊半島内の移動の利便性が大きく改善され、FCV販売が可能となる。 ・スマート水素ステーション(水素製造量1.5kg/日、常用圧力35MPa)を導入。既設太陽光発電設備を活用。
9	境町	<ul style="list-style-type: none"> ・今後策定予定の「境町環境基本計画」に、水素社会の実現を見据え、燃料電池など水素エネルギーの活用を位置付ける方針。 ・既存水素ST(埼玉県春日部市)との最短走行距離は約22kmで、北関東初の設置であり、茨城県域に留まらないFCV普及促進に大きな貢献が期待できる。 ・スマート水素ステーション(水素製造量1.5kg/日、常用圧力35MPa)を導入。既設太陽光発電設備を活用。